

プログラム修了要件

- A 巨大水災害コース**：必修科目2単位・コア科目3単位以上・必修+コア+奨励科目合計12単位以上
B 復興デザインコース：必修科目5単位・コア科目2単位以上・必修+コア+奨励科目合計12単位以上
 ただし他のコースの必修科目の履修単位は上記12単位には含まない。

Aコース	Bコース	開講学期	開講年度	時限	講義名	教員	単位	専攻	備考
必修	-	夏	毎年	集中	巨大水災害軽減学演習	田島・加藤・桑村・大月・佐藤	2	共通	
コア	推奨	A1	毎年	火4	水害シミュレーション学E	田島	2	社基	
コア	推奨	A1,A2	奇数年	金2	耐水建築構造学	桑村	2	建築	
コア	推奨	S1,S2	偶数年	月2	構造信頼性工学	高田	2	建築	
コア	推奨	S2	偶数年	金2	地域安全システム学	加藤	1	都市	
コア	推奨	S1,S2	奇数年	月2	都市防災特論	小出・加藤	2	都市	
コア	推奨	S1,S2	毎年	月2	自然災害と都市防災	目黒・清田・沼田	2	社基	
推奨	推奨	S1,S2	毎年	金3	河川工学特論E	知花	2	社基	
推奨	推奨	S1,S2	毎年	木3	水文学特論E	沖(大)・芳村・沖(一)	2	社基	駒場
推奨	推奨	S1,S2	毎年	金4	海岸水理学E	下園	2	社基	
推奨	推奨	A2	毎年	月3	水質汚濁制御基礎E	古米	1	都市	
推奨	推奨	A1,A2	毎年	火2	都市設計特論第3	窪田	2	都市	
推奨	推奨	A1	毎年	金4	都市水害とリスク管理E	古米・福士・片山	1	都市	
推奨	推奨	S2	偶数年	月2	環境管理適性技術論第二E	島崎・大野・浅見	1	都市	
推奨	推奨	A2	偶数年	水4-5	復興建築計画論	大月	2	建築	
-	推奨	S1	毎年	火3	災害とリスクの過程分析I E	本田	1	新領域	柏 ※1
-	推奨	S2	毎年	火3	災害とリスクの過程分析II E	本田	1	新領域	柏 ※1
-	推奨	A1	奇数年	火4	国際協力における数理分析手法I E	本田・堀田	1	新領域	柏 ※1
-	推奨	A2	奇数年	火4	国際協力における数理分析手法II E	本田・堀田	1	新領域	柏 ※1
-	コア	S1,S2	毎年	月6-7	復興デザイン学	各教員	2	都市、社基、建築	
-	コア	A1,A2	毎年	火3-4	設計製図第1Bまたは設計製図第2B	西出・大月他	4	建築	※2
-	必修	S1,S2	毎年	集中	復興デザイン研究・コロキウムE	羽藤・本田・大月・窪田他	1	共通	※3
-	必修	S1,S2	毎年	月3-5	復興デザインスタジオ(定員12名程)	窪田・大月・羽藤・本田他	4	共通	

- ※1 履修希望者は担当教員(新領域・本田)に問い合わせること。
 ※2 設計製図第1Bまたは設計製図第2Bの中で開講される「復興デザインスタジオ(建築)」を履修すること。
 ※3 復興デザイン研究・コロキウムEの履修は、復興デザインスタジオの履修者のみが可能。

A 巨大水災害コース S1,S2

	月	火	水	木	金
1	構造信頼性工学				
2	環境管理適性技術論第二E 自然災害と都市防災				
3				水文学特論E	河川工学特論E
4	自然災害のモニタリング および制御学E				海岸水理学E
5					
集中	巨大水災害軽減学演習				

B 復興デザインコース S1,S2

	月	火	水	木	金
1	構造信頼性工学				
2	自然災害と都市防災 環境管理適性技術論第二E				
3	復興デザインスタジオ	災害とリスク の過程分析I,II E		水文学特論E	河川工学特論E
4					海岸水理学E
5					
6	復興デザイン学				
7					
集中	修士研究のためのコロキウム				

A A1,A2

	月	火	水	木	金
1					
2		都市設計特論 第三			地域安全 システム学E
3	水質汚濁制御 基礎E				
4		水害シミュレ ーション学E		復興建築計画論	都市水害と リスク管理E
5					

B A1,A2

	月	火	水	木	金
1					
2		都市設計特論 第三			地域安全 システム学E
3	水質汚濁制御 基礎E	設計製図第1B 設計製図第2B			
4		水害シミュレ ーション学E		復興建築計画論	都市水害と リスク管理E
5					

2016年度版

専攻横断型教育プログラム

減災・復興実践学

Disaster Mitigation and Recovery Design

Transdisciplinary Education Program

A. 巨大水災害 コース
Mitigation Strategy against Major Flood Disaster

B. 復興デザイン コース
Recovery Design for Urban Sustainability

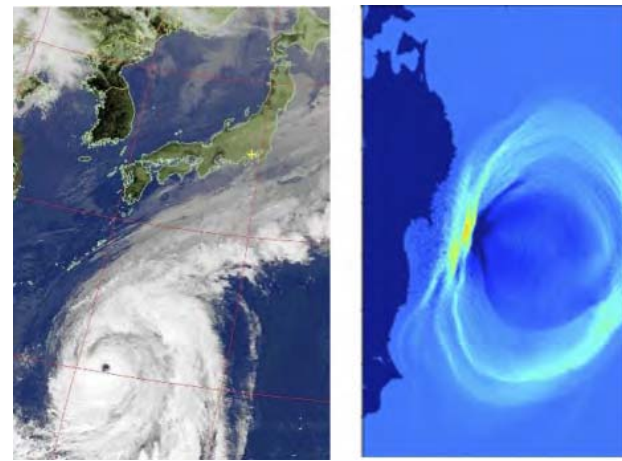
プログラム申請方法・問い合わせ先

大学院在籍中、上記プログラム修了要件を満たすように講義を履修したうえで、修了3ヶ月前までに「減災・復興学教育プログラム認定申請書」を以下の連絡先に提出すること。
 (夏学期は必修科目の履修漏れがないよう十分留意すること。)

- A 巨大水災害コース** gensai@coastal.t.u-tokyo.ac.jp <http://coastal.t.u-tokyo.ac.jp/fdm/>
B 復興デザインコース fukko@bin.t.u-tokyo.ac.jp <http://bin.t.u-tokyo.ac.jp/dss/index.html>

A 巨大水災害 コース

東日本大震災では、巨大な津波が社会の根幹をも揺るがす被害をもたらした。気候変動に伴う集中豪雨などの極端現象の激化や、南海トラフにおける巨大津波なども想定される中、巨大な水災害に対する従来の封じ込め型治水対策には限界があることを認識し、そのうえで総合的で効果的な水害に強い町づくりを具現化することのできる人材の養成が必要不可欠である。またスマトラ沖地震津波災害や、サイクロン・シドルや台風ハイアンに伴う高潮災害など、巨大水災害に対する減災技術の確立は、我が国だけでなく、低平地に人口や資産が集中するアジア諸国においても喫緊の課題である。減災・復興実践学教育プログラム巨大水災害コースでは、水害減災設計学、耐水建築学、水害減災都市システム学の三分野を柱とする新たな減災学理を構築し、大学院レベルの実践的研究と社会基盤学、建築学、都市工学の三専攻横断型の講義・演習を通じて、巨大水災害の軽減に資する教育・研究を展開する。



本教育プログラムは、工学系研究科の社会基盤工学専攻・建築学専攻・都市工学専攻の建設系3専攻が協力して運営します。「工学系研究科専攻間横断型教育プログラム」の規定に基づき、所定の単位を履修した者に、各専攻で授与される課程修了証にあわせて「減災・復興実践学教育プログラム修了認定証」を授与します。

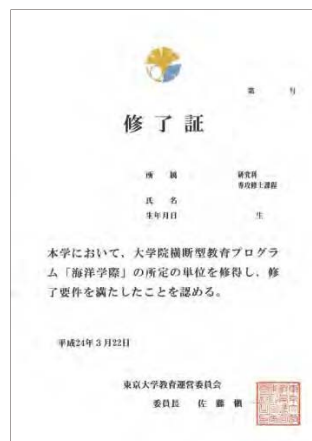
そして、このプログラム認定証は、巨大災害に対する減災と復興に関わる、専門分野の壁を越えた基幹的かつ実践的な知識と技の修得を第三者に証明するものです。

従って、本プログラムの修了者は大学院修了後、どのような分野でどのような立場で働いていても、本プログラムで学んだ分野横断的な専門的知識を活かして、世界で起こりうる多様な災害の対応において、様々な形で平時から関わり、一朝有事の際には復興プロセスにてリーダーの役割を果たすことが大いに期待されます。

本プログラムは、東日本大震災がもたらした甚大な災害の発生メカニズムと被害実態の解明に、そして、被災直後から今なお継続している各分野での復興に、直接的に携わっている本学教員たちが、今回の経験に基づいて、あらためて建設系の専門家として、減災と復興を統合的に理解・実践できる人材を輩出することが、真に社会から要請されているという切実な認識の下に、デザインされたプログラムです。

このような背景から本プログラムでは、想定しうる広域的大規模災害に対する防災・減災策に関わる技術と災後の復興過程における地域や都市の特性を考慮した統合的な計画・デザイン技術を、既存学問分野の壁を越えて実践的に習得することを目的としており、建設系3専攻がこの10年間、一体的に実践してきた21世紀COEとGCOEプログラム「都市持続再生学」の災害対応の具体的・実践的展開でもあります。

本プログラム内に「巨大水災害軽減学コース」と「復興デザインコース」がありますが、どちらを選択しても「減災・復興実践学教育プログラム修了認定証」を取得できます。但し、認定を受けるコースは一つのみとなります。



◆本教育プログラムの修了必要単位を履修した学生には修了証を公布します。

B 復興デザイン コース

常に災害の事前であり事後である。特に近年、災害は複合・多様化している。環境を形成し物流を支えるシステムの脆弱性が問題となってきた。空間計画や整備事業、維持管理の分野において、地震や津波のような突発性リスクだけではなく、環境の悪化や貧困問題、産業構造の転換、人口構成の激変など、現代をとりまく進行性リスクへの対応も全く十分ではない。東日本大震災はそのことを社会的に認知する極めて重大な機会であった。

暮らしの再生のためには、各分野における専門性の高い知見を積み上げると同時に、それらを統合して実践に適用しなければならない。こうした認識のもと、減災・復興実践学教育プログラム復興デザインコースでは、有効な社会技術を会得し、なおかつ柔軟に連携できる人材を育成することを目的としている。

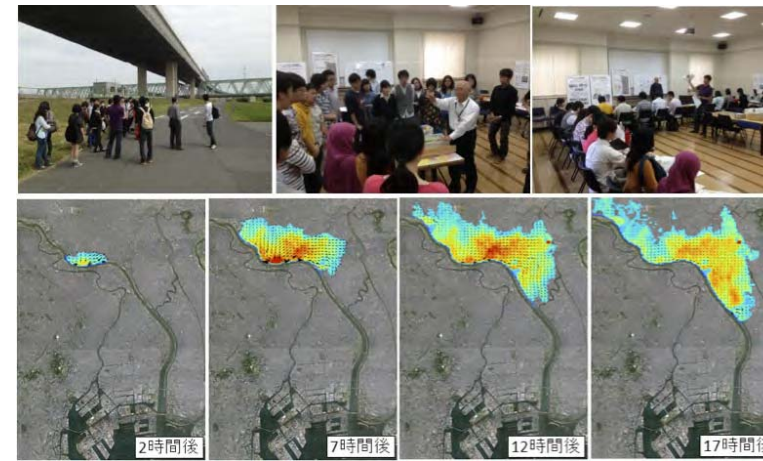
建設系3専攻を中心としながらも、復興の現場で実践に取り組んでいる多様な主体と協働し、都市・地域・コミュニティ・国土レベルで展開可能な空間モデルを構築し、展開していく。



■ コースの特色

本コースの修了要件は、①修士あるいは博士論文研究と②別表に示した講義群から、必修科目(2単位)およびコア科目(4単位以上)を含む合計12単位以上を取得することである。修士あるいは博士論文研究は修了時に発表会を実施し、本教育プログラムの認定委員会による審査を経た後、修了が認定される。

講義群は社会基盤学、建築学、都市工学の三専攻それぞれの学術領域における専門性の高い講義を含んでおり、履修者には自身の専門領域に加え、周辺の学術領域の知見も深めることを期待する。唯一の必修科目である「巨大水災害軽減学演習」では、具体的な対象地域を設定して大規模水災害に対する現在の被害想定や防災・減災対策を調査・分析し、そのうえでより効果的な対策を検討し提案する。専門の異なるメンバーで構成するグループによる共同作業を通じて視野を広げ、講義で学んだ専門知識を実践的な課題解決の場に適用する。平成25年度は葛飾区を対象とし、演習の前半にそれぞれの専門領域のレビュー後、全員で現地踏査を行った。その後、専門領域の異なる学生5名程度のグループでそれぞれの専門を活かして作業分担しながら被害想定や対策案を検討した。最後に現地住民や葛飾区、国交省河川事務所などの関係者に対して成果発表会を行いフィードバックを得た。大学院では異なる専攻・専門の学生でグループワークを行う機会は少なく、本演習は専攻間の学生交流の貴重な場にもなっている。

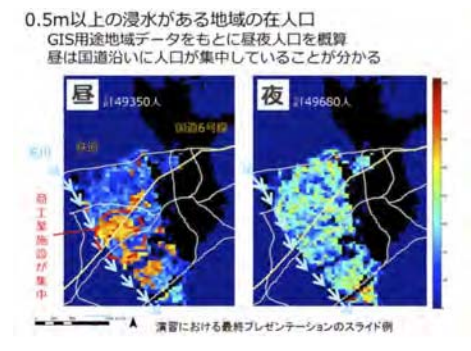


■ 担当教員

社会基盤学専攻	建築学専攻
佐藤 慎司 小池 俊雄 田島 芳満	桑村 仁 大月 敏雄
都市工学専攻	新領域・生産研等
小出 治 古米 弘明	芳村 圭 加藤 孝明 川添 善行

■ 修了後のキャリアパス

官公庁や国際機関、民間企業のプロジェクトマネージャーやエンジニアなど、高い専門性を持ち、かつ総合的な視点から様々な技術を実践の場に適用することのできる人材。

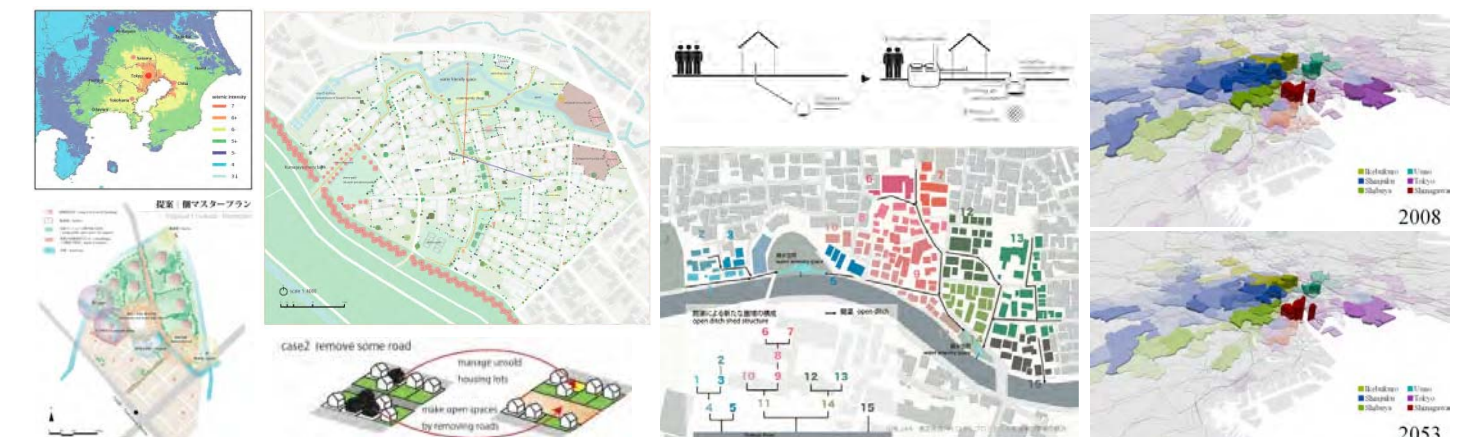


Recovery Design for Urban Sustainability

■ コースの特色

三専攻の学生が、1年夏学期の『復興デザインスタジオ』や『復興デザイン学』を通じて、専門を超えて議論し、分野の相違点と類似性を理解し合うことで、次の震災時に活躍する専門家を育成する。『復興デザインスタジオ(必修科目/演習:定員12名程度)』では、被災の前/被災時/被災から今に至る三時点の空間的変容を分析し、復興による空間整備事業によって形成された現在の状況を対象としたリ・デザインを提案する能力を養う。『復興デザイン学(コア科目/講義)』は、国や自治体等行政の方を主な講師として、被災復興の実例を対象とした実践的な側面を学ぶ。多くの学生に聴講してもらいたい。2年夏学期『復興デザイン研究コロキウム(必修科目/講義)』では、各自の修士研究の構想について多様な分野から討議し、2年冬学期はそれぞれの修士研究によって専門性を深める。

1年夏学期	1年冬学期	2年夏学期	2年冬学期
コア講義 「復興デザイン学」 必修演習 「復興デザインスタジオ」	コア演習 「設計製図1B/ 設計製図2B」	コア 研究導入 「復興デザイン研究 コロキウムE」	修士研究



■ 担当教員

社会基盤学専攻	建築学専攻
羽藤 英二 田島 芳満 中井 祐	大月 敏雄 千葉 学 藤田 香織
都市工学専攻	新領域・生産研等
窪田 亜矢 原田 昇 森口 祐一	内藤廣(名誉教授) 本田利器 下村彰男 大口敬

■ 修了後のキャリアパス

国や自治体等、復興の最前線になる現場の他、各地域と深い関わりを持つ大学や設計事務所、都市計画コンサルタント等のデザイナーを想定。